

# 森林ボランティア「オホーツクの会」だより

2021年12月 No.55

## 秋の森林散策会

**やっぱり自然はいい！**



10月10日、和琴半島（弟子屈町）で秋の森林散策会を25名（含む常呂川FC職員3名）の参加により行いました。

バスの座席は一人掛け、車内のおしゃべりも控えめ、散策時も適度に間隔、昼食休憩も「密」を避けて2カ所に分散、ほぼ終日マスク着用、などの新型コロナ対策をしながらの散策会です。

4班に分かれて秋の和琴半島（散策路およそ2.4km）へ、真っ赤な実をつけたミヤマガマズミ、カツラの黄葉の甘い香り、ウサギの耳のようなオオカメノキの冬芽など、ガイドの解説を受けながら楽しみました。

久々の集まり・散策会に「やっぱり自然はいい！早くコロナが収まってほしいね。」などの声も聞こえました。

赤・紅・黄・橙…色とりどりの紅葉に見入り、カツラの巨木（巨株？）に自然のすごさを感じ、マダラスズ（コオロギ）の鳴き声に癒やされ、オヤコツ地獄では、硫黄のにおいや吹き出す噴煙（蒸気？）に驚き、昼食後は、怪しい雲行きに少し急かされながらも楽しい一日を過ごすことができました。



【参加者多数のため氏名省略します】

<小島>

## 秋の森林散策会

コオロギの声

秋色

大満足！

昼食

いつも楽しい散策、そして学ぶことの大切さを実感できるツアーになりました。

経験のある参加者の提案で階段で秋色をながめながら昼食、自然に輪が  
できおいしい食事でした。



怪しい雲行き、でも雨に当たることなく、和琴半島の特異な地形を歩くことができ、コオロギの鳴き声も聴くことができ大満足です。

後の方がスウィープ（ゴミ拾い）なんて初めてで、自然を守ること（行動すること）を考えさせられました。

ガイドの方、企画された方々に感謝するとともに、今から冬の散策を楽しみにしています。

<早く冬が来て欲しい会員より>

## なるほどクイズ

(答えは会報のどこかに…)



林業・林産業の機械化が進み、作業機もグラップルソー、プロセッサーなどのカタカナだらけですが、昔ながらの作業道具も大切にしたいものです。

そこで問題です。いくつ読めますか&何に使う道具かわかりますか？

- ① 鋸
- ② 斧
- ③ 鉋
- ④ 鳶
- ⑤ 鉋
- ⑥ 鉋
- ⑦ 鎌
- ⑧ 櫓
- ⑨ 鉋
- ⑩ 背負子

## 秋の森林散策会

# アサギマダラに感激！

和琴半島散策会は、散策路入口から秋色の空気の中、カツラの甘い香りも嗅ぎ、ガイドの説明に耳を傾けながら、のんびり歩きでした。

散策路のほぼ中間のオヤコツ地獄で湖を見ながら昼食、食べ終わった頃に風が吹き始め、あやしい雲行きに…。

のんびり歩きから一転、急ぎ足で和琴フィールドハウスへ、雨に会うこともなく無事にたどり着くことができました。

ミンミンゼミ（天然記念物）の鳴き声は聞けませんでした（10月4日の下見の際には聞いた）が、マダラスズの鳴き声やアサギマダラに出会うことができ感激。



ガイドさんからは、たくさんの木々の名前、特徴、違いなどの説明を受けましたが、どれだけ覚えたかな～。

アオダモ、アサダ、アズキナシ、オオカメノキ、オヒョウ、カツラ、ガマズミ、サワシバ、ハウチワカエデ、ホオノキ、イタヤカエデ、イワガラミ、イヌエンジュ、サルナシ、シナノキ、

タラノキ、ツタウルシ、ツリバナ、ハリギリ、ミズナラ、ハクウンボク…  
覚えきれない!!

<小山>

## アサギマダラ

日本全国に分布する大型の蝶で、長距離を移動すること（10月に和歌山県を飛び立ち、83日後に香港で確認）で知られる。

毒性を持つガガイモ科の葉を幼虫が食べることにより、毒化し身を守る。

蟲柱、胡蝶しのぶ（「鬼滅の刃」）のモチーフ…らしい。

# 秋を満喫！

10月30日（土）、今年最後の活動となる「炭づくり&色いろ食べ隊」をこども2名を含めて23名の参加により、「オホーツクの森」（森の家）で行いました。

これは、炭（化粧炭）づくりをメインとしながら、せっかく火を燃やすのだから、その熱を利用した料理も楽しもうというものです。

ただ、参加者数と調理時間の関係で、火力不足を補うためのカセットコンロ利用を余儀なくされていますが…。

まずは、食材（？）調達班、植村さんの案内によりブドウ狩りに向かいました。

事前の下見と大豊作のおかげで大収穫・・・デザートのはずが、お土産となり、今頃はほとんどビンの中（早い人は腹の中？）でしょう。



## 炭作り&色いろ食べ隊



調理班は、具材たっぷりの豚汁、昔なつかしいでんぷん団子、お好み焼き、ソーセージ、ヤキイモ、焼きネギ、焼きカボチャ…と大活躍。

そして、肝心の炭作りは、マツボックリ、栗のイガ、ハスの実、ハスの根、ノラニンジン、ホオの実などに挑戦。

うまく出来たもの、失敗作など、楽しみながらも、来年の課題も生まれました。

青空のもと、秋を満喫、楽しみ・お腹いっぱい的一天となりました。  
【参加者多数のため氏名省略します】

<小島>

## 炭作り&色いろ食べ隊

### 秋の味覚を堪能

天気に恵まれ、木の葉、松かさ、ハスの実、イガ栗、私が持参した坊っちゃんかぼちゃ、ホオの実、サビタの花等、飾り炭がきれいにでき感激、炭が崩れないよう家に帰ってから、ヘアスプレーをかけました。

また、ヤマブドウもたくさん採れ、参加したふたりの子供も大喜び、私はタネを除き、ブルーベリーを混ぜて増量、ジャムにしました。



青空の下、きのこの入った手造り味噌豚汁、金時豆やかぼちゃの澱粉団子、焼きネギ、石焼かぼちゃとじゃがいも等、秋の味覚を堪能し、楽しい一日でした。

お世話になった皆さんに感謝です。ありがとうございました。

<森田陽子>

## 【なるほどクイズ】 答え



馴染みある漢字、初めて目にした漢字、こんな字あるの？という方もいるかもしれません。  
では、答えです。

- ①ノコ ②オノ、ヨキ ③マサカリ ④トビ ⑤カンナ ⑥ナタ  
⑦カマ ⑧ソリ、カンジキ ⑨チョウナ ⑩ショイコ

少し、解説します。

まず、②オノと③マサカリの違いは、刃幅の狭いのがオノ、広いのがマサカリです。そして、包丁に似た形なのが⑥ナタです。

⑨チョウナは、木の皮をむいたり、表面を削るのに使うクワに似た道具で、⑤カンナが発明されてからは、宮大工などの一部に使っているケースが見受けられる程度で「大工道具の化石」と呼ばれているそうです。

⑧カンジキは、他にも樫、樫、桐、勘などの漢字があるそうです。

# エゾリスに大興奮!

友達からのお誘いをきっかけに、5歳の娘と初めて参加させていただきました。

「炭にしたい材料を」とのことだったので『パイナップルのヘタ』を持参しましたが、結果は…あと一歩という感じの残念な姿で…、また挑戦したい!気持ちになりました。

初めてのヤマブドウ採りやノコギリ体験、竹とんぼなど、娘にとって貴重な体験もたくさんさせていただきました。

山奥では。エゾリスに遭遇し大興奮!普段、あまり自然にふれる機会が少ないので、親子共々とてもリフレッシュできました。



自然の中で皆さんと一緒に食べた昼食は格別でした。参加させていただき、本当にありがとうございました。

<所 めぐみ>

## 炭作り&色いろ食べ隊

昨年に引き続き、息子(5歳)と参加させてもらいました。

ヤマブドウ狩りでは、蔓を引っ張ると餅まきのごとく、高所からぶどうが落ちてくる光景が印象に残っています。

## 体験は財産!

女性陣が腕を振ったおいしい昼食の数々をはじめ、トロトロ・ホクホクの焼きネギや焼きイモが格別でした。

会の皆さんが子どもを見てくれていたおかげで、ゆっくり食事をいただき、リフレッシュできました。子どもにとっても、家族以外の大人とふれあう機会をもてたこと、財産だと思います。

我が家では、息子がのこぎり体験で落とした木っ端の上に、松ぼっくりの化粧炭を飾って「楽しかったね～」と話しています。

<齊藤英理>

# 樹木勉強会も実施

## 第2回自主活動

10月12日、緊急事態宣言解除を受けて第2回自主活動を行いました。

会の活動としては5月11日（第1回自主活動）以来の取り組みです。

参加者は6名と少数でしたが、久々の集まり、活動に生き生きとした表情をしていました。

5か月ぶりの活動で、無理しないことを念頭に、昨年長谷川さん他に取り換えていただいた物置の壁の色塗り、森の家周辺の草刈等を行いました。



森の家周辺の草刈については、緊急事態宣言中も常呂川FCの皆さんで行っていたのですが、職員だけでは処理しきれず…とのことで、冬を前に整理でき一安心とのことです。

その後、常呂川FCの近藤さんをガイドに、平安遊歩道（森の家の裏山）を回り、会も協力して設置した樹名板を活用しながら樹種名、特徴などを学びました。

【参加者：小山、植村、長谷川、吉田（正）、渋谷、小島】

<小島>

# 中止となりました

新型コロナの感染拡大をうけて、次のイベント・行事が中止となっています。

9月4～12日 森林のパネル展

9月14日 自主活動

10月16日 森林づくり塾（素材生産事業者との打合せの結果、9月25日に日程変更して準備しましたが、緊急事態宣言により中止となりました。）



# 私が見つけた自然 4コマで感じる「写真展」

時 期 2022年5月上旬予定

場 所 NHK  
ぎやらりー

自然、生き物を題材にした  
「私の好きな自然」【2L版  
4枚1組】を一般市民も含めて  
広く募集します。  
(作品募集 22年3月予定)

**今から準備を！**



新型コロナの感染拡大からほぼ2年、「会の活動がほとんど中止なのに会費は集めるの？」という声が事務局に寄せられました。

当会が活動支援を受けている常呂川FCや参加（協力）していた北見市等のイベントがことごとく中止になったのは紛れもない事実です。

そうした中でも当会は、無理しない範囲で、コロナ禍でもできることを模索し、少人数・分散型の「森林ウォークウィーク」や昼食の密などを避ける工夫をした散策会（サロマ湖畔、和琴半島）、写真展、総会と合わせて実施した研修会（シマエナガ）、会報の継続発行など、工夫しながら活動を進めてきました。（会の活動は休んでいません）

「森林とのふれあいを楽しみながら、森林に学び、森林をつくり、仲間の輪を広げる」という会の趣旨に賛同され、会員各位のご理解をお願いします。

会 長 吉田昭義





新型コロナの発生状況等によっては、中止・内容変更になる場合があります。

申込みは、別紙「**申込み用紙**」または**メール**で  
[h\\_tokoro\\_f@maff.go.jp](mailto:h_tokoro_f@maff.go.jp) (常呂川 FC アドレス)

### ○冬の自然観察会

月 日 2022年2月27日(日)  
常呂川森林ふれあい推進センターからバスが出ます  
出発 8:30 (受付8:00~)

場 所 神の子池(清里町)

内 容 スノーシューをはいての森林散策・自然観察他

持ち物 森林散策できる服装、昼食、飲み物、マスク等  
(スノーシューは無料で借りることができますが、お持ちの方はご持参ください)

参加費 200円(保険料等)

申込み 2月15日(火)まで

予定人員(25名)を上回った場合は抽選とします

○2月15日(火)、観察会の下見を兼ねた「自然に学び隊」活動を行います。参加希望者は2月8日(火)までに連絡願います。  
(詳細は、参加希望者へ連絡します。)

### ○第14回総会&研修会

月 日 2022年 3月13日(日) 10:30~

場 所 端野公民館 第1研修室

研修会 10:30~12:00

テーマ 「ヒグマの生態と共存の道」(仮題)

講 師 知床財団を予定

(研修会については調整中ですので、テーマ・講師とも変更となる場合があります。なお、研修会のみ、総会のみ参加も可能です。)

**昼食休憩後、総会を開催します。**

## アンケートに協力を!

会報と一緒に、アンケートへの協力をお願い、アンケートハガキを同封しています。

今後の活動に生かす(総会議案等に反映)させるため、1月中旬頃までに投函をお願いします。

## 木々に関するつぶやき

### 【シナノキ】(アカジナ)

太さ 1m、高さ 20m 以上になる落葉広葉樹で、日本固有種。(シナノキ属は北半球の温帯に分布)



葉は長さ幅とも 4~10cm の心円形で無毛。実は 5mm ほどの球形で花序の柄にへら型の苞葉をつける。

材質は柔らかく、合板、鉛筆材、民芸品などに、皮は繊維が強く、ロープの材料や衣類に、花は蜜源として利用される。

シナノキの名は、皮が柔らかくシナシナしているから、アイヌ語のシナ(結ぶ・縛るの意)からという説がある。



## 会費納入のお願い

当会は皆様からの会費を基に活動を進めており、滞納者が増えると運営に支障を来すことが避けられません。

年会費を滞納し続けた場合は、継続の意思がなく退会と判断せざるを得ません。(退会される方は事務局へ一報願います)



### 心当たりの方はよろしくお願ひします。

#### — 納入方法 —

- ・ 総会および会が主催・参加するイベント時に納入  
(会報等でご確認ください)
- ・ 常呂川森林ふれあい推進センター内の事務局に納入
- ・ 会の郵便局口座に振り込む(手数料がかかります)

振込先口座 19960-8073231

森林ボランティア「オホーツクの会」

### お問い合わせ



北海道森林管理局  
常呂川森林ふれあい推進センター内  
森林ボランティア「オホーツクの会」事務局

〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11-3  
TEL 0157-23-2960 FAX 0157-26-2144